

ラッフルズの19世紀初頭ジャワ人口統計の再検討

——初期センサスの問題点をめぐって——

坪 内 良 博*

A Re-examination of Raffles's Statistics on the Population of Java in the Early Nineteenth Century

——Some Problems of Early Censuses——

Yoshihiro TSUBOUCHI*

This paper focuses on the re-examination of the Raffles's population statistics of Java in early nineteenth century. Population statistics of these early periods have been either cited uncritically or simply abandoned as unreliable. The defects of these old statistics should be discussed explicitly before they are treated in either way. The figures compiled by Raffles in his *History of Java* were based on the reports by the local colonial officers and/or native rulers in Java. Underestimation in the statistics is due to a. oversight of certain regions, b. underestimation of household numbers, c. underestimation of household members. A considerable part of the underestimation derives from that of household

members. In this paper, a detailed examination was done of the following aspects: a. errors in computation, b. distribution of household size by sub-district, c. distribution of sex-ratio by sub-district, d. variation of age-structure by sub-district, e. problems of Chinese population. Special attention was given to the consistency of the definition of categories and the distribution patterns of the reported figures. Various aspects of underestimation may reflect the opposing interests of colonial officers vs. native rulers, and rulers in general vs. the ruled. The diverse distribution of the statistical index figures seems to be a result of a balancing of these elements in diverse situations.

はじめに

19世紀におけるジャワ島の急激な人口増加は、植民地行政の効果やジャワ島稲作の生産力などをめぐって、さまざまな議論を引き起こしてきた。もっとも単純な見方は、議論の基礎となるジャワ人口が、1815年の450万人から出発して、1850年には2倍以上になり、

その後さらに増加し続けるというように記述する種類のものであって、植民地時代の各種人口統計をそのままの形で用いている [Taeuber 1965: 80; Myrdal 1968: 1395, 等]。ほんの僅か遅れて刊行された人口学的な検討は、とくに古い時期の植民地統計に疑いを表明し、人口増加率を修正しようとしている [Widjojo 1970: 27-47; Peper 1970, 等]。これらの修正は、基本的には異常に高い増加率から可能と考えられる増加率への修正であって、顕著な人口増加があったという事実を

* 京都大学東南アジア研究センター；The Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University

否定するものではない。このような議論において利用されるのはジャワ島あるいはジャワ島人の総人口に関する数値であって、総人口それ自体が如何なる要素から構成されているかにはほとんど注意が払われていない。古い時期の人口統計が、為政者の人口把握を目的として行われている場合、人口数が過少となって表現される傾向があることは常識的な見解であるが、これらの修正にあたってはこの常識が漠然と採用されるのみで、この過少評価がどのような形をとって出現するかということにはかならずしも言及されることがなかった。ここでは、最も古く、かつ細目にわたる地域データの集計であり、多くの研究者に言及されつつも、後の時代の統計からの逆進推計では、原記述自体の評価が十分なされぬままに全体人口の過少性が指摘され、事実上無視的な取扱いを受けてきたラッフルズのジャワ人口統計を取り上げて、その内的構造を吟味することにする。この作業を通して、いわゆる歴史的な統計が内在していた問題点を検討する事を試みたい。

I ラッフルズのジャワ人口統計 ——その構成と集計上の諸問題——

ラッフルズのジャワ人口に関する記述は、1817年に刊行された彼の大作『ジャワ史』第1巻 pp. 61~72, および第2巻 pp. 241~291を中心として見出すことができる。これらの統計は、1811年から1816年に至る5ヵ年のイギリスのジャワ統治時代に集められたものである。前の部分には二つの表が含まれている。その第1表(以下、一覧表 I と略称する)は、1812~13年を対象とするやや不完全な地域(division) 別人口統計、第2表(以下、一覧表 II と略称する)は、英植民地政府のセンサスに基づく、1815年時点の州(province) 別統計である。後の部分は、ジャワおよびマド

ゥラの各州に関する個別的な統計表の集成(以下、地域表と略称する)であり、人口の外に土地面積や農産物に関する統計を含む。ラッフルズの統計において、一般によく引用されるのが、一覧表 II の集計結果として算出されたジャワ島総人口4,615,270人および土着人口4,499,250人である。これらの合計値の計算過程および各地域表における人口統計の取扱いの検討を通して、ラッフルズの統計の評価を行うのが本稿の目的である。

まず土着人口に限定してチェックを行うことにする。一覧表 II および各地域表に記載された、各地域の土着人口を対照すると、前者の数値は大部分において後者に対応していることが確認され、この意味で後者が一覧表 II 作成の基礎となっていることが分かる。対照を厳密に行うと、21に区分された地域のうち、七つの地域に関して、ときには重大な、またときには軽微なくい違いが存在することが発見される。それらは次の通りである。

(1) もっとも大きなくい違いは、「Japára (Jebara) および Jawána (Juwana)」に見出されるもので、一覧表 II における土着人口101,000人に対して、地域表における土着人口は213,427人となっている。一覧表 II ではこの地域の土着人口は男子54,000人、女子47,000人、計101,000人という概数で示されており、この表が作成された時点では地域表が入手されていなかったと想像させるものがある。地域表の土着人口を採用すれば、112,427人だけ1815年時点ですでに過少評価が存在していたことになる。

(2) Semárang (Sumarang) に関しては、町の人口の扱いにおいて生じた欠落がみられる。地域表には17の区域(divisions) に関して利用形態別土地面積が示され、次いでジャワ人、中国人その他の外国人について、男女別、耕作者・非耕作者別人口が記載されている。この外に、統計表の欄外に「町および郊外の

表1 ラップルズの一覧表 II (部分) 1815

DIVISIONS.	TOTAL Popula- tion.	Males.	Females.	NATIVES.			CHINESE, &c.		
				TOTAL Natives.	Males.	Females.	TOTAL Chinese, &c.	Males.	Females.
JAVA.									
<i>European Provinces.</i>									
Bantam	231,604	106,100	125,504	230,976	111,988	118,988	628	352	276
Batavia and its Environs	332,015	180,768	151,247	279,621	151,064	128,557	52,394	29,704	22,690
Buitenzorg	76,312	38,926	37,386	73,679	37,334	36,345	2,633	1,591	1,042
Priángen Regencies	243,628	120,649	122,979	243,268	120,289	122,979	180	86	94
Chéribon	216,001	105,451	110,550	213,658	99,837	113,821	2,343	1,193	1,150
Tégal	178,415	81,539	96,876	175,446	80,208	95,238	2,004	915	1,089
Pakalúng'an	115,442	53,187	62,255	113,396	52,007	61,389	2,046	1,180	866
Semárang	327,610	165,009	162,601	305,910	154,161	151,749	1,700	848	852
Kedú	197,310	97,744	99,566	196,171	97,167	99,004	1,139	577	562
Grobógan and Jíping	66,522	31,693	34,829	66,109	31,423	34,686	403	223	180
Japára and Jawána	103,290	55,124	48,166	101,000	54,000	47,000	2,290	1,124	1,166
Rémbang	158,530	75,204	83,326	154,639	73,373	81,266	3,891	1,831	2,060
Grésik	115,442	58,981	56,461	115,078	58,807	56,271	364	174	190
Surabáya	154,512	77,260	77,252	152,025	76,038	75,987	2,047	1,010	1,037
Pasúruan	108,812	54,177	54,635	107,752	53,665	54,087	1,070	522	548
Probolíng'go	104,359	50,503	53,856	102,927	49,797	53,130	1,430	706	724
Banyuwáangi	8,873	4,463	4,410	8,554	4,297	4,257	319	166	153
<i>Native Provinces.</i>									
Súra-kérta	972,727	471,505	501,222	970,292	470,220	500,072	2,435	1,285	1,150
Yúgya-kérta	685,207	332,241	352,966	683,005	331,141	351,864	2,202	1,201	1,001
MADURA.									
Bankálang and Pamakásan.	95,235	47,466	47,769	90,848	45,194	45,654	4,395	2,280	2,115
Súmenap	123,424	60,190	63,234	114,896	55,826	59,070	8,528	4,364	4,164
Grand Total	4,615,270	2,268,180	2,347,090	4,499,250	2,207,836	2,291,414	94,441	51,332	43,109

推定人口」として20,000人が挙げられ、これを加算して総人口327,610人が示されている。ところが、一覧表 II の土着人口においては、この20,000人が全く無視されているのである。ただし、このうち土着人口が何人を占めるかは不明である。

(3) Yúgya-kérta (Yogyakarta) については、一覧表 II における土着人口が、地域表におけるスルタン領人口と、南海岸の Pachitan (Pacitan, 1813年に英政府に割譲された) の人口との合計になっているが、こ

れは明らかに中国人その他を含むのである。すなわち一覧表 II における総人口は中国人その他の人口を二重に数えていることになる。これを訂正すると、土着人口は表記よりも 2,202人少ない 680,803人ということになる。

(4) Súra-kérta (Surakarta) については、地域表の土着人口合計(筆者による再計算)の方が一覧表 II よりも1,090人少なくなっている。これは地域表の集計上の間違いが、そのまま一覧表 II に転記されたためである。

(5) Probolinggo (Probolinggo, Beseki と表記される場合もある) については、地域表の土着人口の方が一覧表 II よりも2人多い。これは一覧表 II における転写の際の間違いと考えられる。

(6) 集計にかかわる軽微な計算違いが五つの地域に関して発見される。(i) Tégal (Tegal) の土着人口 (ジャワ人) に関しては、地域表の男女の合計に起因する計算違いのため、一覧表 II (地域表と一致) の人口は33人減じて175,413人と修正されねばならない。(ii) Surabáya (Surabaya) においてはいくつかの計算違いの複合のため、土着人口 (地域表と一致) は、7人増えて152,032人と修正される。(iii) Pasúruan (Pasuruan) では、計算違いにより、一覧表 II の土着人口 (地域表と一致) は、10人減じて107,742人に修正される。(iv) Bankálang と Pamakásan (Bangkalan と Pamekasan) については、マドゥラ人からなる土着人口は、一覧表 II から28人減じた90,820人となる。(v) Súmenap (Sumenep) でも同様、計算ミスにより、マドゥラ人からなる土着人口は一覧表 II から2人減じた114,894人となる。

上述のような集計上の間違いを含む一覧表 II は、1815年の時点において既に訂正されるべき性格を有していたのである。これらの数値を合計すると、一覧表 II の土着人口には、129,071人 (ただしこれは Semárang 市街の中国人をも含む可能性がある) の不足があり、ラッフルズの示した4,499,250人に代わって、土着人口は4,628,321人と修正されねばならない。ラッフルズの数値よりも2.9%多くなっている。ただし、地域表の中に散見される誤植の存在を考慮すると、軽微な計算間違いの一部はラッフルズ自身が使用した原表と、印刷された地域表との間の違いに基づいている可能性もあり、細かい数値に及ぶ修正を行うことは疑問を含むと同時に、無意味である

ことを付記する必要がある。修正に貢献する最も重要な部分は、前掲の Japára および Jawána, ならびに Semárang にかかわるものであることを強調しておく必要がある。

一覧表 I は、英政府の直接支配下の地域に限って、一覧表 II より2、3年前に数値が集められたもので、ラッフルズ自身が認めるようにきわめて不完全な性格を有しており、土着人口の合計は僅か2,249,342人に過ぎない。しかしながら、この一覧表 I の数値を各地域表と対照すると、Tégal (Tegal), Pakalúng'an (Pekalongan), Semárang, Grésik (Gresik), Banyuwáangi (Banyuwangi), および Madura 島に関して、これらに含まれる下位地域の一部の人口が一覧表 I において各地域表記載値を上回る場合があることが分かる。一覧表と地域表とにおいて行政地域の境界の変更がなかったと仮定すると、過少報告が恒常化している当時の状況を前提とする場合、一部の地域についてはより後の時期の報告において、より顕著な過少報告がなされることも起こりうる。2、3年という時間差とそれによって生じた変動を無視して、一覧表 I の数値が大きい場合のみをひろいあげていくと、地域表および一覧表 II の土着人口をさらに125,198人かさあげすることが可能である。この場合修正後の土着人口は4,753,519人となる。

一覧表 I における人口表示は、ラッフルズによって集められた人口統計のあり得べき欠陥を以上とは別の観点からも示唆している。すなわち、一覧表 I において、土着人口は、首長、僧職者、平民に分けられ、平民はさらに、健康な既婚者、婚姻可能年齢の者、10歳以下の子供に細分されて、男女別にその数が示されている。重要なことはこれらの数値の合計が土着人口総数に一致せず、それをかなり下回っているということである。Bantam (Banten) に関する地域表においても、やや

異なるが類似のケースが見出される。この地域では、世帯主(男女)、既婚婦人、子供(男女)というカテゴリーの合計値の外に、総人口(computed total population)という欄が設けられており、後者の数値はこれに含まれる中国人等(一覧表 II に示されている)を考慮しても、前者をはるかに上回っている。すなわち、Bantam 全体について言えば、身分別人口の合計値は193,946人(これは計算違いを含むがここでは触れない)、総人口は221,714人、その差が27,768人となるのである。ちなみに Bantam の中国人等の人口は628人とされている。36に細分化された下位地域毎にみると、総人口と身分別人口の合計との比は、1.023から2.598の間でかなりの変異を示している。これらのことは、家族身分別の統計が、表示された以外のカテゴリーを実際には含むにもかかわらずそれを省いて報告あるいは集計された可能性、または身分別カテゴリー自体は全住民を対象とするもののその報告が全ての集落から得られなかったという可能性を示唆している。類似の状況が身分別あるいは年齢階級別記載を含む他の地方にも当てはまるものの、それらの場合には残余のカテゴリーあるいは未報告分が無視されてすっきりした数値だけが報告されたのではないかという疑いもたれるのである。

Bantam に関する地域表は、人口情報の収集に関して、もう一つの不安を含んでいる。Bantam の南部の五つの地方(districts)に関しては、それぞれ総人口が示されるのみで、その合計値9,890人は、彼が居住する地域の広がりをも勘案すると、ラッフルズ自身も認めるように過少評価の観を免れない。英人支配に移行する直前の Bantam に限ってこのような不完全な報告をもたらしたという可能性は有るものの、特殊ケースとしてのみ理解すべきかどうか問題が残るのである。

II 世帯規模

地域表のうち約半数に関しては、それぞれの中でさらに細分化された地域(regency あるいは division)別に、世帯規模と想定される数値を算出することができる。算出の手続きは次の通りである。

(i) 土着人口を土着人口についての「農家(cultivators)+非農家(employed in other avocations あるいは householders not cultivators)」で除したもの——Pakalung'an, Semarang, Jipang および Grobogan (Jipang および Grobogan), Jápara および Jawaña, Grésik, Surabáya, Pasúruan (Pasuruan), Besuki

(ii) 全人口(中国人等を含む)を「世帯主(householders not cultivators)」で除したもの——Bantam

(iii) 全人口を「農家(cultivators)+非農家(householders not cultivators)」で除したもの——Tégál

これらのうち、最後の二つは、土着人口に関する数値が示されていないので、全人口に関する数値を代替的に使用している。ここで「想定される」という表現を用いたのは、耕作者(cultivators)が、農家、農業従事者、農業世帯人口のいずれを意味するか指示されず、それぞれの地域表によってまちまちであるからである。非農家を指すために非農業従事世帯主(householders not cultivators)という表現が用いられるために、これに対応する耕作者もまた世帯主を指すと判定されるのが、Semarang, および Tégál の場合であって、他の地域表の場合にはより微妙な判定が必要となる。ちなみに、世帯主数ではなくて世帯員総数と判断されたもの(cultivators と employed in other avocations の合計が総人口に等しい)には、Priángen (Priangan), Chéribon (Cirebon), Rémbang (Rembang),

表2 平均世帯規模別下位地域数の分布

地 域	対 象	平均世帯規模 (人)						計
		1.00-1.99	2.00-2.99	3.00-3.99	4.00-4.99	5.00-5.99	6.00-6.99	
Bantam	全人口		15	17	1			33
Tégal	同 上			1	1		1	3
Pakalúng'an	ジャワ人			1	2			3
Semarang	同 上		1	11	4		1	17
Grobógan and Jípag	同 上		2	1	4	1	1	9
Japára and Jawána	同 上			1	3			4
Grésik	同 上				5	4		9
Surabáya	同 上			8	1			9
Pasúruan	同 上			1	1	1		3
Probolíng'go (Besuki)	同 上	7	15	1	2			25
計		7	33	42	24	6	3	115

Banyuwáangi が含まれる。また Kedú (Kedu) に関しては、耕作者と非耕作者の合計は男子人口に等しい。このことから Kedú の人口が成年人口のみを報告したものであると判断することも可能のように見えるが、耕作面積などを対照させながら検討するとそれにも疑問があり、Kedú における耕作者、非耕作者というカテゴリーが中央政府の指示を誤解したまま、男子だけを世帯の職業別にわりふって報告されたものではないかと考えられるのである。ラッフルズのジャワ統計においてはこのような指示の不徹底が欠陥の一つとして指摘されるのである。

上に述べた手続きを経て、各地域表について、それに含まれる下位の地域区分ごとに算出された平均世帯規模（想定）をまとめて示すと、表2のようになる。土着人口において、世帯規模が概して小さいこと、また同一地域の中において変異の幅が大きいことが指摘される。ジャワ人の間における家族の小ささについては、ラッフルズ自身がこの書物のなかで言及しており、一家族の平均成員数は4ないし4.5人を越えない [Raffles 1817: I, 70] と述べているのであるが、表2においては、

平均値が3人に及ばない場合が三分の一を占めている事実に注目する必要がある。最も顕著なケースがみられる Besuki では、2.00人から2.99人の幅のなかに全体の60%がおさまる、最も小さい世帯規模である1.00人から1.99人の幅に入るものが7例(28%)存在する。これらの数値は、世帯員数ではなく就業者数を示すという解釈も成立し得るようにも見えるが、他の極には4.00人から4.99人というカテゴリーに入る数値が出現しているので、少なくとも Besuki 全地域にわたって就業者数のみが報告された値と考える訳にはいかない。現実の平均世帯員数に著しい変異があったと考えるよりも、人口数に関する報告の不完全さが上述の結果を招いたと考えることもできる。この見方をすれば全人口に関する過少報告が生ずるメカニズムの一端をここに見出すことができるかもしれない。この背後には、税をとりたて得る成人（特に成人男子）に興味を示しても、人口一般を数的に把握することには比較的無関心であった為政者の態度が存在していたと考えられる。¹⁾ 仮に

1) より古い時期の家族単位あるいは世帯単位とも受け取られるチャチャ (cacah) は、納税義

Besuki における農業従事者および非農業従事者が全て世帯主であるという前提を保持しながら、一世帯の規模を4.00人と設定すれば、この地域の実際の土着人口は報告された102,929人の1.83倍に相当する188,320人ということになるし、平均世帯員が4.37人であれば、報告数のちょうど二倍になる。これは極端な例であるが、他の地域にも多かれ少なかれ類似の現象の存在を認めることができる。

III 性 比

男女別の人口統計は、土着人口に限定するときには16の地域表に含まれる下位区分毎に記載されている。これから算出される性比については、それが現実のものであるよりも、全般的な過少報告のなかで男女の比がどのように表現されているのかという観点から検討が加えられるべきであろう。各地域の下位区分毎に計算された性比の分布は表3に示す通りである。インドなどと異なり、男女の扱いに関して、当時においても大きな不平等がなかったとみられるジャワ島においては、特に男子の生存率を女子のそれに比して高く見積もる理由は存在しない。一方では租税あるいは賦役の主対象である成人男子を少なめに報告しようとする傾向、他方ではこれらの目的を重視して成人男子数を確実に把握しようとする傾向が交錯し、地域的な傾向の差を示しつつも性比にかなり大きな変異が見られるのである。全体的に見れば、男子数をより少なく報告しようとする傾向の方が、相対的により強いことを、性比の分布傾向から読みとることができる。もっとも男子数が多いケースも無視できぬ程多く存在している。性比が

0.900に達しないケースが全体の16.0% (131例中21例) を占める一方、性比が1.100以上の場合が全体の9.9% (同13例) を占める。極端なケースは、Tégál の下位地域の一つ Brebes における0.603, およびマドゥラ島の Súmenap の属島の一つである Gila Raja における1.573である。前者においては、土着人口のみならず中国人等に関する性比も0.606 (220/363) と低くなっており少なくともこの地域に関しては、報告作成時に一貫して意図的な操作の行われた可能性が感じられる。後者については、たまたまここで示されている年齢層区別に観察すると、少年少女における異常に高い性比2.795 (587/210) が全体の性比に影響を及ぼしていることが分かる。若い男、若い女というカテゴリーでは、もはや性比は0.929 (117/126) となっていることに注意する必要がある。

性比を利用して人口統計上の修正を行うことは、全般的な過少報告のなかで性別人口の報告の差が見られるという状況をふまえると、その可能性あるいは意味性が低いものとなるであろう。

IV 年 齢 構 造

如何なる形にせよ年齢区分の要素を含む統計表は、Bantam, Priángen, Surabáya, Súra-kérta, Yúgya-kérta, Bankálang と Pamakásan, Súmenap の七つの地域表に限られている。記載の方法がまちまちなので、ここでは個別に内容を検討することにしよう。

Bantam においては、33の下位区分について成人数、子供数が性別に示されている。これは中国人等を含むが、Bantam 全体における中国人等の割合は0.3%に過ぎない。男子人口における子供(男子)の割合、および女子人口における子供(女子)の割合をそれぞれ計算し、その分布を示すと表4のようにな

▼ 務との関連において、一単位の規模が恣意的に膨張していく傾向が指摘されるが、ラッフルズの時代の世帯規模がこれとは全く逆の形で数的に表現されることは興味深い。

表3 性比の分布

地 域	対 象	性 比 (男/女)									計	
		.600 ~.699	.700 ~.799	.800 ~.899	.900 ~.999	1.000 ~1.099	1.100 ~1.199	1.200 ~1.299	1.300 ~1.399	1.400 ~1.499		1.500 ~1.599
Priángen	記載なし			1	6	3	2					12
Tégal	ジャワ人	1		2								3
Pakalúng'an	同 上		1		2							3
Semárang	同 上				3	12	2					17
Kedú	同 上				6	4						10
Grobógan and Jípag	同 上			5	3	1						9
Japára and Jawána	同 上				2	2						4
Pémbang	同 上				3							3
Grésik	同 上				1	7	1					9
Surabáya	同 上			1	2	1	3	1	1			9
Pasúruan	同 上				1	2						3
Probolíng'go (Besuki)	同 上	1		3	12	9						25
Banyuwáangi	同 上				1	1						2
Súra-kérta	同 上				1							1
Yúgya-kérta	同 上			4	2	3						9
Bankálang and Pamakásan	マドゥラ人				2		2					4
Súmenap	マドゥラ人			2	4	1					1	8
計		2	1	18	51	46	10	1	1		1	131

坪内：ラッフルズの19世紀初頭ジャワ人口統計の再検討

表4 人口に対する子供の割合—Bantam および Priángen の諸地域 (Priángen は () 内に示す) —

	.100-.149	.150-.199	.200-.249	.250-.299	.300-.349	.350-.399	.400-.449	.450-.499	.500-.549	.550-.599	計
男子			1	1							2
女子	1			2 (1)							3 (1)
				1	4		(1)				5 (1)
					5 (2)	3	(1)	(1)			8 (4)
				1	1	5	2	1	(1)		9 (1)
						1	2	2	(1)		5 (1)
							1		(1)	(3)	1 (4)
計	1		1	4 (1)	10 (2)	9	5 (2)	3 (1)	(3)	(3)	33 (12)

る。男子の場合25.6%から57.3%，女子の場合13.8%から46.4%に至る間に分布して，その変異はきわめて大きく，性比の場合と同様，すべての地域に共通する方向性をもって報告されているというよりは，報告の基本姿勢が過少と過多の双方にむかって分裂していることが分かる。これが成人数の過少報告に起因するか，子供数の過少報告に起因するかは判断し難い。ただし，それぞれの下位区分における男子子供数割合と女子子供数割合の間にはかなり顕著な相関関係が認められる。男子人口における子供の割合は一つの下位地域 (Bantam の町を中心とする地域) を除いて女子人口における子供の割合を上回るが，これは男女の子供の死亡傾向の差というよりは，女子の早婚を背景とする成人の定義における男女差に基づくものであろう。女子に早婚的皆婚の傾向が認められ，平均15歳で結婚すると仮定しよう。Coale と Demeny の四つの地域モデル生命表を用いて計算した安定人口を利用すると，当時の全般的な高死亡傾向 (0歳平均余命が27.5歳以下，すなわちレベル4以下であるとする) と低人口増加率 (人口1,000に対する増加率が5.00以下であるとする) を前提とすれば，15歳以下の人口の割合は，30.05% (Model East, Level 4, r=0) ないし39.73% (Model North, Level 1, r=5.00) となるが33の下位地域のうち，6地域がこの下限値 (30.05%) に達せず，8ケースが上限値 (39.73%) を越えていることが分かる。

Priángen においては，12の下位地域に関して土着の耕作者 (cultivators) と非耕作者 (not cultivators) について，成人，子供の数が性別に示されている。耕作者と非耕作者の合計について，Bantam の場合と同様，男女別に子供の占める割合を示すと表4のかっこ内の数値の如くとなる。男子の場合31.6%から56.7%，女子の場合29.2%から58.1%に至

る変異がみられる。女子における子供人口の割合が男子の場合を上回るケースが半数を占めているが、これは前述の観点からすれば矛盾を含むことになる。女子において子供の割合が40%を越える地域が4分の3を占め50%を越えるものだけでも半数を占める。このことは全体的傾向として子供数の過剰を意味し、成人人口の過少報告を示唆するように見える。子供割合の過剰は特に非耕作者において著しい。

Súra-kérta のススフナン領に関しては四つに分けられた地域について、成人と子供の数が男女別に示されている。男子人口に対する男児の割合と女子人口に対する女児の割合には顕著な差はなく、男子40.3%~55.4%、女子41.3%~55.4%の間に分布しておりここでもまた子供割合の過剰、すなわち成人人口の過少報告が推定される。²⁾

Surabáya に関しては、市街人口（土着人口とみなされる）についてのみ、4段階に区分した性別人口統計が収録されている。それらは、a. 50歳を越える男（1,745人）、b. 50歳を越える女（2,680人）、c. 20歳から50歳の男（5,908人）、d. 20歳から50歳の女（6,841人）、e. 10歳から20歳の男（771人）、f. 10歳から20歳の女（540人）、g. 10歳未満の男児

（3,019人）、h. 10歳未満の女児（3,070人）である。10歳未満の男児の男子人口に対する割合26.4%、同じく女児が女子人口において占める割合は23.4%であり、これらの割合は前述の基準に基づく安定人口の10歳以下人口の割合（男子20.98%~30.16%、女子20.86%~29.01%）の範囲におさまっている。しかし、10~20歳の年齢階級の占める割合は、男子6.7%、女子4.1%で顕著に小さくこの年齢階級に属する人口が上下の年齢カテゴリー、とくにより上の年齢カテゴリーに吸収されている可能性、あるいは、この年齢階級に過少報告の主要部分が存在する可能性を示唆している。50歳までの累積割合は、男子84.7%、女子79.6%である。男子については安定人口下で存在し得る数値であるが、女子についてはレベル4以下の死亡率という条件下では実現不可能な数値である。10~20歳の人口の過少報告を認め、さらに中高年者の年齢が実際よりも高めに見積もられていることを推定すると、対応する安定人口を見出すことができるようになる。

Yúgya-kérta については、九つの下位地域に関して、授乳中、15歳未満、15歳位で未婚、既婚者、単身者、という五つのカテゴリーに分けて男女別の人口が示されている。3番目のカテゴリーに至るまでの各段階の累積割合は図1に示す通りである。授乳中の乳児の割合は、男子では7.2~14.0%の間、女子では7.0~12.4%の間に分布し、これらの中の最大値は、レベル4までのモデル生命表を採用するとしても、増加率0.00~5.00の条件下で満5歳になるまで授乳が続けられていることを意味する。これは長期の授乳を慣習とするジャワ人の間でもやや長過ぎるから、これから逆に乳児数の相対的な過剰、すなわちより高い年齢の人口に関する過少報告の可能性を示唆することができる。15歳位の未婚者のカテゴリーに至る累積割合は、男子30.8~50.6

2) 子供の割合が過大という表現は、子供の定義に大きく依存していることに注意しておく必要がある。当時のジャワにおける初婚年齢が、ここで採用している常識的な判断に反して、相当高かったとすると、これまでの議論は無効となる可能性を含むことになる。非耕作者において子供の割合が相対的に多いことは、この種の再考への契機ともなり得る。しかしながら、子供人口の割合の下位地域間変異は余りにも大きく、同一地域内できわだって高い初婚年齢をもつ下位地域が存在することを強調することはむしろ不自然なことで、および、たとえ初婚年齢を少々高めに設定しても、なお子供の割合が過大と判断される場合もあることなどのために、最初の判断を維持した方が説得力があるように思われるのである。

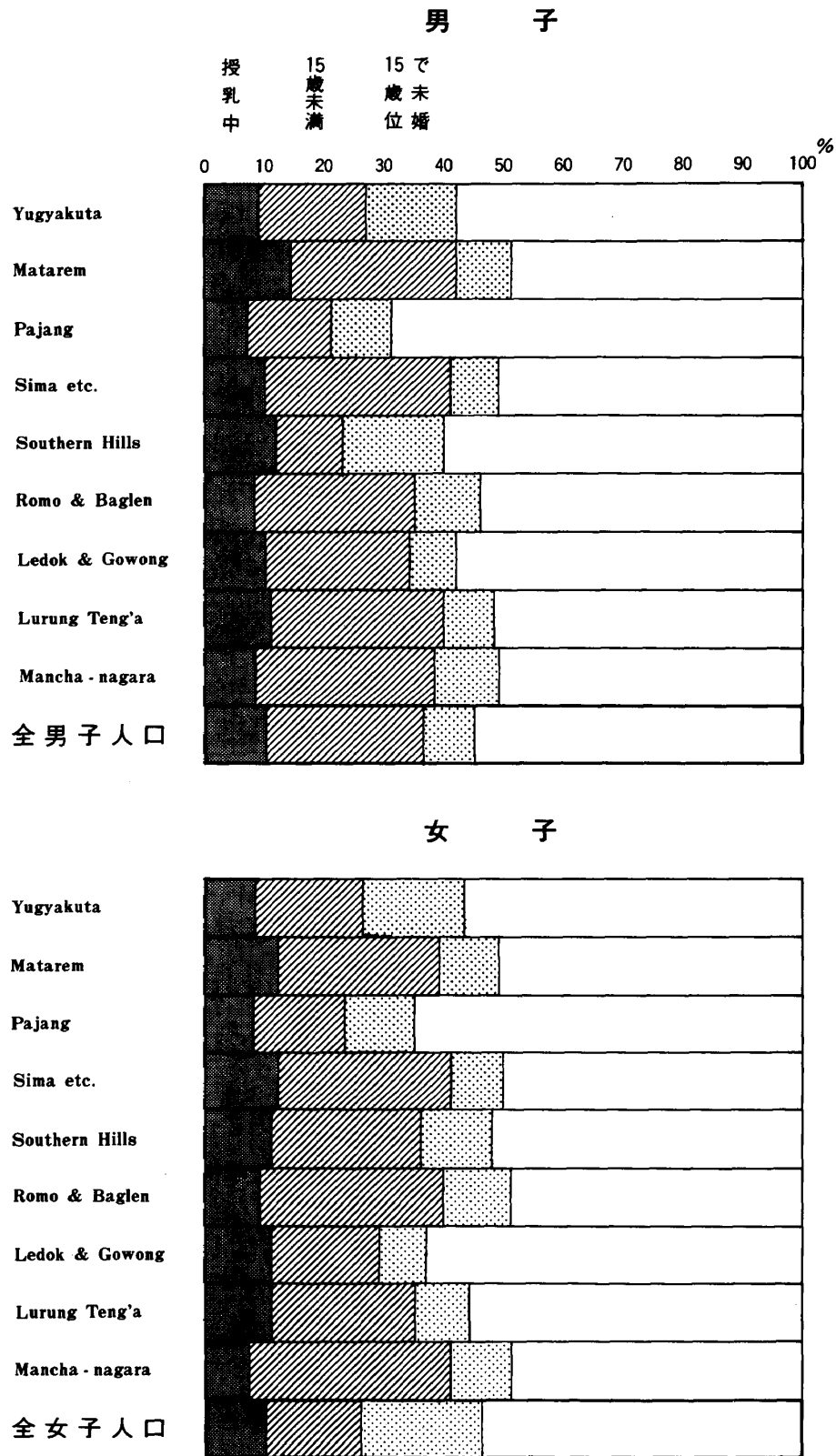


図1 Yúgya-kérta (Yogyakarta) 各地域の人口の年齢階層構成
 出所) Population of the Territory of the Sultan, 1815 [Raffles 1817: Vol.2, 290] により作成

%, 女子35.5~51.0%である。ここで女子人口に限って検討を行うことにしよう。女子の平均初婚年齢を15歳とみなすと、既述条件下での安定人口において15歳未満人口の占める割合は最大でも40%に達しないのに対して、九つの下位地域中七つまでが累積割合40%以上を示す。これから逆に考えてみると、より高い初婚年齢が一般的であったのでなければ、幼少・若年人口の相対的過剰、すなわち成人数の過少報告があったことが示唆される。同一下位地域に関して男女の間に累積割合の差が認められず、男女の初婚年齢の差を考慮すると、このことは男子人口における成人数の過少報告がより著しいことを意味するかも知れない。

クローファード (John Crawford) は、1811年から1817年をジャワ島で過ごしたが、1814年にジョクジャカルタにおいて独自の人口統計を収集している。これらの統計の中にはジョクジャカルタの年齢区分別人口に言及しているものが含まれているが、その数値はラッフルズの地域表 (1815) とほぼ同時期に収集されラッフルズの地域表における首都人口と想定される Yugyakuta と同一の地域から集

められたものとみなされる。クローファード自身はラッフルズの『ジャワ史』の記述に関して批判的であったといわれ、おそらく数値の正確さは彼の方に分があったと見られるが、その二つの統計を比較すると表5のようになる。年齢層の区分については、ラッフルズの地域表における「結婚していない男性(同じく女性)」は、クローファードでは「寡夫(寡婦)」に対応し、「15歳未満の少年」は「割礼前の少年」「15歳未満の少女」は「研歯前の少女」に対応するというように、厳密に解釈すれば両者のカテゴリーは完全に一致するものではない。しかしながら現実にはラッフルズに表現上のあいまいさがあって、彼の用いたカテゴリーは実際上クローファードのそれに対応すると思われる。両者のカテゴリー毎に対応させると、(1)少年、(2)既婚男子、(3)未婚の若者、(4)既婚女子の順にラッフルズにおける過少が目立ち、このことは既に指摘した問題点と一致している。クローファードの総人口に対してラッフルズのそれが5.8%少ないこと、および前者の既婚男子に対して後者のそれは14.6%少なく、また既婚女子についても12.5%少ないということは、ラッフル

表5 Crawford と Raffles によるジョクジャカルタ人口 (1815年頃)

クローファード (a)		ラッフルズ (b)		b/a
結婚している男性	10,188人	結婚している男性	8,697人	0.854
結婚している女性	10,355	結婚している女性	9,065	0.875
寡夫	1,479	結婚していない男性	1,595	1.078
寡婦	1,919	結婚していない女性	2,252	1.174
未婚の若者	2,972	15歳位の未婚の若者	2,592	0.872
未婚の少女	2,313	15歳位の未婚の少女	3,255	1.407
割礼前の少年	3,956	15歳未満の少年	3,225	0.815
研歯前の少女	3,274	15歳未満の少女	3,599	1.099
授乳中の男児	1,721	授乳中の男児	1,531	0.890
授乳中の女児	1,447	授乳中の女児	1,528	1.056
計	39,624	計	37,339	0.942

注) Crawford [1849] および Raffles 地域表による。

ズの統計において、成人に関して如何に過少報告が行われたかを示唆している。³⁾

マドゥラ島の諸地域に関しては、マドゥラ人を対象に、少年・少女、若い男・若い女、20歳から50歳の男・女、50歳以上の男・女、僧職、首長という区分に従って該当人口が示されている。20歳から50歳の男子の全男子人口に対する割合は、27.1%から58.1%、同じ年齢層の女子の全女子人口に対する割合は、27.3%から62.1%に至る大きな変異を示しており、大きな操作を含む場合があることを示唆している。Súmenap に属する島嶼の人口の中には、Gila Raja におけるように少年が男子人口の50.7%を占める場合があったり、Gila Ginting におけるように少女が女子人口の30.9%を占める場合があったりする。Gila Raja の少年・少女における性比は2.76(580/210)、Gila Ginting におけるそれは0.56(170/301)である。このような変異を含む数値の集成としての年齢カテゴリー別統計から明示し得ることはほとんどないが、女子人口に着目すれば、マドゥラ島西部に関して高死亡率・低増加型の安定人口（レベル4以下 $r=0.00\sim 5.00$ ）において近似人口構造が見出される可能性があり、また、島嶼を含むマドゥラ島東部については、50歳以下人口の累積が

マドゥラ島西部よりも大きく、さらに若い女性の累積がより低いために、一方ではより高い増加率、他方ではより低い結婚年齢を想定することができる。

V 中国人などに関する統計

一覧表 II においては、土着民と並んで中国人その他というカテゴリーが設けられ、地域毎に男女別人口が示されている。一覧表 II の中国人その他の人口値の半数（10地域）は地域表の数値と一致するが、四つの地域表（Bantam, Batavia および郊外, Buitenzorg, Priángen）においては中国人その他に関する情報記載がなく、七つの地域表においては、一覧表 II との間になんらかのくい違いあるいは問題点が認められる。それらについて一覧表 II の記載地域順に検討すると以下のようになる。

Semárang に関する一覧表 II の中国人その他の人口（1,700人）は地域表に一致し、一見問題がないように見えるが、既に指摘したように、市街人口20,000人が集計上無視されているので、この中に含まれるべき中国人等の人口も同時に無視されていることになる。後述の Surabáya と同数の中国人等がこの町に居住するとすれば、その数は2,000人ということになり、町の規模に比例するとすれば、1,600人となる。Japára および Jawána については土着民の場合と同様、一覧表 II の中国人等人口2,290人よりも、地域表の中国人等の人口2,669人の方が多い。Surabáya については、一覧表 II における中国人等人口2,047人（男1,010人、女1,037人）に対し、地域表では487人（男222人、女265人）と大きな差があり、後者の方が少ない。しかし、これは後者が市街地の中国人人口を記載せぬためと推定され、一覧表 II と地域表の数値を対照した結果、市街地に居住する中国人等が

3) クローファードによるより正確な人口数の提示にもかかわらず、彼の数値自体が相当な過少である可能性を、一覧表 II に付記された都市人口の記述に見出すことができる。そこには、「土着国家の首都 Súra-kérta の人口は105,000人、Yúgya-kérta の人口はいくらか少ない」と記載されているのである。Súra-kérta のそれは地域表の首都人口の合計105,102人にはほぼ等しい。Yúgya-kérta の場合、ラッフルズによって Yugyakuta、クローファードによって Yugyakarta と記された首都の人口は、それぞれ37,339人、39,624人と4万人にも達しないのであって、このことをいかに理解すべきかが問題として残るのである。

表6 中国人その他の性比と土着民の性比との比較

	土着民の 性比		中国人その 他の性比
Bantam	.941	<	1.275
Batavia および周辺	1.175	<	1.309
Buitenzorg	1.027	<	1.527
Priángen	.978	>	.915
Chéribon	.877	<	1.037
Tégal	.842	>	.840
Pakalúng'an	.847	<	1.363
Semárang	1.016	>	.995
Kedú	.981	<	1.027
Grobógan and Jípang	.906	<	1.239
Japára and Jawána	1.149	>	.964
Rémbang	.903	>	.889
Grésik	1.045	>	.916
Surabáya	1.001	>	.974
Pasúruan	.992	>	.953
Probolíng'go	.937	<	.975
Banyuwáangi	1.009	<	1.085
Súra-kérta	.940	<	1.117
Yúgya-kérta	.941	<	1.200
Bankálang and Pamakásan	.990	<	1.078
Súmenap	.945	<	1.048
計	.964	<	1.191

一覧表では2,000人(男1,000人,女1,000人)と見積もられている事実が発見され、⁴⁾ また同時に一覧表 II における中国人等の人口は誤りらしいことが分かる。Súra-kérta については、一覧表 II と地域表との間に4人の違いがあるが、これは地域表におけるミスプリントの可能性が高い。Yúgya-kérta の地域表の中国人等の人口は、1,309人で、一覧表 II における2,202人よりも少ない

4) 一覧表 II 男子人口(77,260人) - 一覧表 II 男子土着人口(76,038人) = 1,222人。1,222人 - 222人(地域表の中国人等の男子人口,但し市街地居住者を除く) = 1,000人(市街地中国人等男子人口)。女子についても同様に計算。

が、これは前者が1813年に英側に割譲された Pachitan の中国人等人口を含まぬためである。マドゥラ島の Bankálang と Pamakásan, および Súmenap に関しては、おそらく計算違いおよびミスプリント等に起因する僅かなくい違いがある。

以上の検討の結果、Semárang における1,600人ないし2,000人、Japára および Jawána における379人、Surabáya における440人などを合計して、2,419人ないし2,819人がラッフルズの集計では見落とされていることが分かる。誤差の程度は土着人口におけるよりも僅かに低いとはいえ、基本的にはほぼ同じレベルの違いである。一覧表 I の中国人(Chinese + descendants) およびその他の人口は、Semárang, Japára および Jawána, Grésik, Pasúruan, および一部の地域の下位単位に関して、地域表よりもやや大きい値を示している。これらに関して地域表側に操作に基づく過少報告があるとすれば、ここにも若干ながら修正の可能性が含まれる。この修正(2,415人)を加えると、4,834人ないし5,234人だけラッフルズの前集計を上回る数値となる。このかさあげの程度は土着人口の場合とはほぼ等しい。

一覧表 II に従って、土着民の性比と中国人その他の性比を計算すると表6の如くとなりジャワ島全体としては、土着人口性比0.964に対して、中国人その他の性比は1.191とより高い。とくに Batavia およびその周辺(1.309), Buitenzorg (1.527), Pakalúng'an (1.363) などに高い値がみられる。これらの数値は、19世紀末葉ないし20世紀初頭の東南アジア諸都市における中国人の性比に比してはるかに低く、この時点におけるジャワの中国人の定着度ないし現地化の度合いの高さを示している。同時に土着人口よりも高いという点で彼らの移住者の性格をのぞかせていると言えよう。このような状況のなかで、

Japára および Jawána, Rémbang, Grésik, Surabáya, Pasúruan など、中部ジャワから西ジャワにかけての一連の地域で、中国人その他の性比が、土着人口よりも低い状況が見出されることに注意したい。これは人头税への対応などを含む意図的な男子人口の過少報告の結果ではないかと疑われるのである。

おわりに

いわゆる歴史統計に分類されるものの中には、疑問をもたれながらも引用され続けて来たものがかなりあるが、ラッフルズのジャワの人口もその一つである。このために、むしろ逆進推計 (Backward projection) によって後の時期の数値から古い時代の人口を推計しようとする試みが行われたりしている。しかし古い統計を見捨てる前に、古い統計自体の欠陥を明示する必要がある。ラッフルズのジャワ統計は基本的には各地方の植民地官吏の報告の集成であるが、そこには明らかに過少報告の傾向がある。過少報告の構成要素はさまざまであるが、次の三つの側面のどこかにその原因が見出される筈である。

- a. 報告からもれた地域の存在
- b. 報告からもれた世帯の存在
- c. 報告からもれた世帯構成員の存在

本稿における検討は、とくに c の側面の重要性を示唆している。内的整合性の検討というここで用いた手段から必然的にこの側面が強調されるのである。部分的には b の側面の存在の可能性が示唆されることもあるが、それは内的整合性の検討からはどちらかといえば発見が困難なものである。人口と共に統計化された他の指標（たとえば、農地保有、農作物収量、家畜数、農具保有状況）との対応を検討することによって発見される可能性もあるが、古い居住地と新開地という当時存在した対照的な環境の中で、この対応を厳密に

捉えることはきわめて困難である。世帯数が過少あるいは不完全に報告される傾向は農村よりも都市において顕著であることにも注意しておきたい。都市は行政の中心であることにもかかわらず、その居住者の把握は不完全な場合が多く、しかも19世紀以降東南アジアの都市人口は急成長を示して来たのである。ある地域がそっくり未報告の状態が無視されることは、起こり得ないことではないが、どちらかと言えばまれであるといえよう。それがある程度の大きさをもつ集落であるとすれば、少なくともその存在に関する情報だけは伝わりやすいからである。19世紀の東南アジアに関して、ある地域の人口の記載に際してこの種の脱落が生じるのは、行政官による報告よりは探検者による記録においてである。ジャワ人口の把握は、この意味で、当時としては最も精度が高い状況に達していたと考えてもよいであろう。乳幼児および高齢者を含む完全な人口構造の把握は当時の行政者にとっては必ずしも目標とするところではなかった。他方、彼らが掌握することを欲した成人男子人口は、末端レベルからの最も著しい隠蔽の対象となったのである。ある時期の人口統計の姿がこの体制の中で、「古いセンサス」の特徴を具えて出現するのである。

参考文献

- Coale, Ansley J.; and Paul Demeny. 1983. *Regional Model Life Tables and Stable Populations*. 2nd ed. Academic Press.
- Crawford, John. 1849. Notes on the Population of Java. *Journal of the Indian Archipelago and Eastern Asia* 3.
- Myrdal, Gunnar. 1968. *Asian Drama, an Inquiry into the Poverty of Nations*. New York: Pantheon.
- Peper, Bram. 1970. Population growth in Java in the 19th Century. *Population Studies* 24(1).
- Raffles, Thomas Stamford. 1817. *The History of Java*. 2 vols. (Reprint ed. London: Oxford

University Press, 1965.)

Taeuber, Irene B. 1965. Asian Populations: The Critical Decades. In *The Population Crisis, Implications and Plans for Action*, edited by Ng, Larry K. Y. Bloomington: Indiana

University Press.

Widjojo, Nitisastro. 1970. *Population Trends in Indonesia*. Ithaca & London: Cornell University Press.